

平成24年度 小学校教職員を対象とする環境教育研修会 実施報告
「やってみよう！環境学習プログラム」第6回「食べ物からエコ」

(テーマ：食、エネルギー)

□実施日時 平成24年8月23日（木）

□受講者数 36名

□実施場所 東京都庁第2本庁舎 10階207, 208会議室

□実施内容

【午前】

1. 事務連絡・開講挨拶等

- ・事務局（研究所）から受講上の注意、全体スケジュール等の説明
- ・環境局環境政策課（企画調整係 鈴木主任）より開講挨拶等

2. ゲストティーチャーからの講義・講話

（担当：「オテル・デュ・ミクニ」 オーナーシェフ 三國清三^{きよみ}氏）

「“地産地消と食育について”～味覚は心と気持ちを豊かにする～」と題して、

- ・ 三國氏の子供時代からシェフを志し海外修行に出るまでの講話
- ・ 特に子どもの頃に味覚を鍛え育てることが、五感の感覚を敏感にし、感性豊かな人間に成長していくことにつながる等、味覚や食育の講義
- ・ 地産地消の取り組みや江戸野菜の紹介があった。

【午後】

3. 環境学習プログラム「食べ物からエコ！」

（担当：特定非営利活動法人 環境学習研究会 谷村春樹理事長）

(1) 「食べ物からエコ！」模擬授業

- 冒頭に環境学習の意義として、前半の三國シェフの話（味覚を育てることと心（感受性）の成長についての話）とリンクさせながら、
 - ・ 感性と理性のバランスが大切であること
 - ・ 実感を伴う体験が重要であること
 - ・ 自然界と人間のつながり（生態系）を学び、自然が人間の生命の源であることを理解することで、子ども達が自然や環境を大切に人間に成長することなどの話があった。
- 次に、実践的な環境学習プログラムとして、前半は「買い物ゲーム」を実際に体験し、フードマイレージの考え方や地産地消の大切さを子供たちに伝える手法を学んだ。講師からは、関連事項として主要な食物の食料自給率など

の紹介があった。

- 後半は「旬当てクイズ」を通じて、野菜の旬を意識することや、旬の野菜(露地栽培)の方がハウス栽培のものより栄養価が高く、栽培にかかるエネルギー利用量も少ないこと等を考える模擬授業を行った。

(2) まとめ（質疑応答及び発表、参加者同士の情報交換）

この日の研修を通じて、気づいたこと、感じたこと、授業での活用方法や各学校で実施した関連事例等について、参加者が一人ずつ発表し、講師がコメントをして、参加者で情報を共有した。

今回は、教育の現場で実施するうえで様々な切り口が考えられる「食」をテーマとした研修であり、また先生のほか栄養士なども参加していることもあって、食育や味覚、旬、地産地消などの観点から、授業や給食、家庭での取り組み方についての多様な意見やアイデアが出された。

5. 事務連絡、アンケート記入等（事務局）

なお、午前中の最後に「アクション7事業」の紹介を行った。

【研修の様子】（午前）



三國シェフの講義①



三國シェフの講義②（味覚について）

【研修の様子】（午後）



三國シェフの講義③



環境学習の意義について



買い物ゲームの説明



買い物ゲーム（実習）①



買い物ゲーム（実習）②



食料自給率クイズ



旬当てクイズ(説明)



旬当てクイズ（実習）



旬当てクイズ(解説)



まとめ、発表等